

報道関係各位

2012年9月14日
エーザイ株式会社
エーザイ・ジャパン

《47都道府県 認知症に関する意識・実態調査 結果速報》

親が認知症になることによる生活への負担を意識しながらも、 4人中3人が自宅での介護を希望

厚生労働省が8月に発表した認知症高齢者数によると、65歳以上の10人に1人が認知症の疑いがあるとされ、今年の時点で305万人になり、過去10年間で2倍に増加していることが明らかになりました。

エーザイ株式会社 エーザイ・ジャパン(プレジデント:直江 登)では、高齢者の長寿を祝う敬老の日(9月17日)や9月21日の世界アルツハイマーデー(9月は世界アルツハイマー月間)を前に、増加傾向にある認知症に関する人々の意識・実態を把握するため、65歳以上の親がいる20代以上の男女を対象に、47都道府県9,400人(各都道府県 各200人)へ、認知症に関するインターネット調査を実施しました。(調査期間:2012年8月16日~8月17日)

その結果、下記の意識・実態が明らかになりました。

認知症介護研究・研修東京センター センター長の本間昭先生は結果速報に対し、コメントを寄せられています。

遅れがちな医師など専門家への相談

- 8割以上は「早く対応・治療すれば、進行を遅らせることができる」と正しい認識【詳細 P4】
- しかし、親の認知症の症状に気づいても、3割以上が1年以上経って家族・知人以外の専門家に相談、2割以上はまだ相談も行っていない【詳細 P4】
- 1年以上経って相談した人の約半数が、もっと早く相談すればよかったと後悔している【詳細 P4】

本間先生：

以前に行なわれた同様の調査では、家族の変化に気づいても受診など何らかの行動をとった人は半数でしたが、残りの半数は何の行動もとっていませんでした。今回の調査では、まだ行動していない人は約4分の1になっていました。認知症についての理解が進んでいることの表れではないかと思います。

家族が認知症かもしれないということは確かに受け入れがたいことですが、少しでも早く受診し診断を受けることがその後の生活をどのように過ごせるかに大きく影響します。

求められる適切かつ十分な情報提供

- 約 8 割が、認知症に関する必要な情報が十分に入手できていないと感じている【詳細 P4】
- 認知症の進行についてのイメージは、「認知症の進行は速い」(52.1%)、「認知症の進行は遅い」(16.6%)、「分からない」(31.3%)【詳細 P5】
- 認知症について最も気になること、第 1 位は「症状がどのように進行していくのか」(32.4%)、第 2 位は「医療・介護にかかる費用」(25.1%)、第 3 位は「まず、どこに相談すればよいか」(22.6%)【詳細 P5】
- 親が認知症ではないかと思ったら、まずは「専門医」に診てもらいたいと、半数以上が希望【詳細 P5】
～「かかりつけ医」を選んだ人は、最も多い山形県・三重県(各 30.9%)と最も少ない北海道(14.6%)で 2 倍の差～

本間先生：

専門医を受診したいというニーズが高いわけですが、どこに専門医がいるのかすぐわからない場合も少なくありません。まずはかかりつけの先生あるいは地域包括支援センター（地域によって他の名称のこともあります）に相談しましょう。専門医を受診した時には、質問したいことをリストにして説明がなければ積極的に質問しましょう。

親が認知症になることによる生活への負担を意識しながらも、自宅での介護を希望

- 親が認知症になることで、「毎日の生活ペースが崩れる」と 8 割以上が回答
7 割以上が「経済的な負担」や「自分の家族への負担」も危惧【詳細 P5】
- しかし、4 人中 3 人が、親が認知症になったら「自宅で介護したい」【詳細 P6】
～都道府県別では、「自宅で介護したい」割合は、京都府(83.9%)が最も高く、石川県(65.7%)が最も低い～
～男女別では、「家族・親族だけで自宅で介護したい」割合が、男性が 22.7%に対し、女性は 9.7%と、男女差が大きい～
～女性は 6 割以上がヘルパーさんや地域の専門家の協力を得ながら自宅で介護したいと思っている～

本間先生：

親が認知症になったら自宅で介護したいと回答している人たちが大部分ですが、毎日の生活のペースが崩れることや経済的な負担に対する心配も多くの人たちがあげています。認知症は早期の段階では、本人の世話もほとんど必要ありませんし、経済的な負担もありません。この時期に余裕をもって受診し、将来のことについて専門家と相談したりしてください。早期診断が大切ですが、このような意味もあります。

また、国でも「認知症施策推進 5 か年計画（オレンジプラン）」を策定しており、早期診断や自宅での暮らしを可能にするための様々な支援体制が整いつつあります。

<まとめ>

本調査から、親が認知症になることで自分の生活の負担が増すことを認識しながらも、自宅での介護を希望する人が多いことが明らかになりました。しかし、実際には認知症に関する十分な情報が入手できていないという声も多く、その結果、認知症の症状を見逃したり、相談する場所を迷ったりし、受診・対応への着手が遅れていることも推測されました。また、身近なかかりつけ医や地域の相談窓口ではなく、専門医に診てもらいたいという回答が多かったことから、認知症は他の病気とは違う「特別な病気・特別な対応が必要」と捉えている意識も窺えました。

こうした状況に対し、国でもかかりつけ医による認知症対応の推進、職種をまたいだ「認知症初期集中支援チーム」の設置など、地域ネットワークによる在宅での認知症ケア支援に向けて動き出しています。

エーザイ株式会社でも、地域の医療機関、地域包括支援センターを検索できる「認知症地域支援マップ」などを通じ、認知症の方やそのご家族の不安や負担の軽減に貢献できるよう、取り組んでまいります。(詳しくは最終頁をご参照ください)

※ニュースリリース中の数値は、全て小数点第2位以下を四捨五入しています。

※ニュースリリース中で用いている全国／各都道府県の結果に関する数値は、平成22年国勢調査 人口等基本集計における各都道府県／都市分類／性別の人口比に合わせ、拡大係数を算出し、実際の人口の構成比に適合するようにウェイトバック集計しています。

※ウェイトバック集計を行なっているため、母数および回答数に小数点が発生していますが、四捨五入して整数表記をしています。そのため、回答数と回答割合に差異が生じていることをご了承ください。

APPENDIX

詳細な結果に関しては、下記をご参照ください。

遅れがちな医師など専門家への相談

8割以上は「早く対応・治療すれば、進行を遅らせることができる」と正しい認識

認知症を知っている、もしくは聞いたことがある 9,385 人に、「認知症の対応・治療に関して、あなたのイメージに最も近いものを選んで下さい。(単一回答)」と聞いたところ、81.7%(7,664 人)が「早く対応・治療すれば、進行を遅らせることができる」を選択し、認知症への対応に関して正しい認識を持っていることが分かりました。

しかし、親の認知症の症状に気づいても、3割以上が1年以上経って家族・知人以外の専門家に相談、2割以上はまだ相談も行っていない

認知症と診断された、もしくは認知症の疑いがある親を持つ 990 人に、「親御様の様子や症状の変化に気づいてから、どのくらいの期間で家族・知人以外の専門家に相談しましたか？(単一回答)」と聞いたところ、30.8%(305 人)が気づいてから「1年以上」の間、相談しなかったことが明らかになりました。さらに 23.3%(231 人)は「まだ相談していない」と回答しました。

この結果から、親の認知症における症状に気づきながらも、医師などの専門家への相談までに時間を要する場合が多いことが分かりました。

1年以上経って相談した人の約半数が、もっと早く相談すればよかったと後悔している

1年以上経ってから医師などの専門家に相談したと回答した 305 人に、「親御様に、もっと早く家族・知人以外の専門家への相談を勧めておけば良かったと後悔したことがありますか？(単一回答)」と聞いたところ、47.0%(143 人)が「はい(後悔したことがある)」と回答しました。

この結果から、相談の遅れにより、症状が進んでしまったことを後悔している状況が推察されます。

求められる適切かつ十分な情報提供

約8割が、認知症に関する必要な情報が十分に入手できていないと感じている

認知症を知っている、もしくは聞いたことがある 9,385 人に、「認知症に関して、必要な情報が十分に入手できていると思いますか？(単一回答)」と聞いたところ、78.6%(7,376 人)が「いいえ」と回答し、多くの人が必要な情報を入手できていないと感じていることが分かりました。

認知症の進行についてのイメージは、「認知症の進行は速い」(52.1%)、「認知症の進行は遅い」(16.6%)、「分からない」(31.3%)

認知症を知っている、もしくは聞いたことがある 9,385 人に、「認知症の進行に関して、あなたのイメージに最も近いものを選んでください(単一回答)」と聞いたところ、「認知症の進行は速い」が 52.1%(4,890 人)、「認知症の進行は遅い」が 16.6%(1,558 人)、「分からない」が 31.3%(2,937 人)と回答し、イメージがつかない人が 3 割以上にのびました。こうした認識が認知症発症時の早期対応・治療の遅れにつながっている可能性が考えられます。

認知症について最も気になること、第 1 位は「症状がどのように進行していくのか」(32.4%)、第 2 位は「医療・介護にかかる費用」(25.1%)、第 3 位は「まず、どこに相談すればよいか」(22.6%)

認知症を知っている、もしくは聞いたことがある 9,385 人に、「認知症について、気になる項目は何ですか？最も当てはまるものをひとつだけ選んで下さい(単一回答)」と聞いたところ、最も気になることとして、一番多かったのが「症状がどのように進行していくのか」で 32.4%(3,037 人)、続いて「医療・介護にかかる費用」が 25.1%(2,356 人)、「まず、どこに相談すればよいか」が 22.6%(2,119 人)となりました。

**親が認知症ではないかと思ったら、まずは「専門医」に診てもらいたいと、半数以上が希望
～「かかりつけ医」を選んだ人は、最も多い山形県・三重県(各 30.9%)と、最も少ない北海道(14.6%)で 2 倍の差～**

認知症を知っている、もしくは聞いたことがある 9,385 人に、「もし、あなたの親御様が認知症ではないかと思ったら、一番最初にどのような対処をしたいですか？(単一回答)」と聞いたところ、「まず、専門医に診てもらいたい」という回答が最も多く、51.5%(4,836 人)となり、難しい特別な病気という印象が強いことが見て取れました。次いで「まず、かかりつけ医に診てもらいたい」が 23.8%(2,237 人)で続きました。

都道府県別に見ると、「かかりつけ医」を選んだ割合が最も高かったのは山形県・三重県で各 30.9%(62 人)、反対に最も低かったのは北海道で 14.6%(29 人)という結果になりました。

親が認知症になることによる生活への負担を意識しながらも、 自宅での介護を希望

**親が認知症になることで、「毎日の生活ペースが崩れる」と 8 割以上が回答
7 割以上が「経済的な負担」や「自分の家族への負担」も危惧**

認知症を知っている、もしくは聞いたことがある 9,385 人に、「あなたの親御様が認知症になることで、あなたの生活にどのような影響があると思いますか？(複数回答)」と聞いたところ、「毎日の生活ペースが崩れる」が最も多く、82.0%(7,696 人)で、次いで「経済的な負担がかかる」78.7%(7,390 人)、「夫や妻、子どもなど、自分の家族に負担がかかる」72.8%(6,831 人)となり、本人だけではなく、家族全体にも影響を及ぼすと考えていることが窺えました。

しかし、4人中3人が、親が認知症になったら「自宅で介護したい」

～都道府県別では、「自宅で介護したい」割合は、京都府(83.9%)が最も高く、石川県(65.7%)が最も低い～

～男女別では、「家族・親族だけで自宅で介護したい」割合が、男性が22.7%に対し、女性は9.7%と、男女差が大きい～

～特に女性は6割以上がヘルパーさんや地域の専門家の協力を得ながら自宅で介護したいと思っている～

認知症を知っている、もしくは聞いたことがある9,385人に「もし、あなたの親御様が認知症になったら、どのように介護したいと考えますか？(単一回答)」と聞いたところ、「できる限り、家族・親族だけで自宅で介護したい」16.0%(1,499人)、「できる限り、近所の人にも協力をお願いしながら家族・親族中心に自宅で介護したい」4.8%(455人)、「できる限り、ヘルパーさんなどにも力を借りながら家族・親族中心に自宅で介護したい」34.3%(3,220人)、「自宅にいながら、家族、医師などの医療関係者や介護関係者などと共に地域全体で介護したい」21.2%(1,988人)と、合わせて4人のうち3人(76.3%)が「自宅で介護したい」という希望を持っていることが分かりました。

都道府県別では、「自宅で介護したい」割合が最も多かったのが京都府で83.9%(168人)、最も少なかったのが石川県で65.7%(131人)となりました。

また、男女別では、「家族・親族だけで自宅で介護したい」という割合で、男性(4,504人)が22.7%(1,023人)と回答したのに対し、女性(4,881人)は9.7%(476人)となり、実際に介護する機会の多い女性の方が周りの協力も借りながらの自宅での介護を希望していることが明らかになりました。

さらに女性では、親の認知症の介護方法として、「できる限り、ヘルパーさんなどにも力を借りながら家族・親族中心に自宅で介護したい」を選んだ人が38.0%(1,853人)、「自宅にいながら、家族、医師などの医療関係者や介護関係者などと共に地域全体で介護したい」を選んだ人が24.5%(1,195人)と、合わせて6割以上の女性がヘルパーさんや地域ネットワークの協力に対し、積極的に検討していることが分かりました。

さらに詳細の調査結果はこちらをご参照ください

→[参考資料「47都道府県 認知症に関する意識・実態調査」](#)

【エーザイ株式会社 認知症啓発サイト「e-65.net(イーローゴ・ネット)」】



エーザイ株式会社は、認知症の方やそのご家族がいつまでも本人らしく過ごし、かけがえのない人生を生きるための支援として、認知症啓発サイト「e-65.net」で「認知症地域支援マップ」を開設しております。

■認知症啓発サイト「e-65.net」(<http://www.e-65.net>)

認知症 地域支援マップ (<http://sasp.mapion.co.jp/b/e-65/>)

— 認知症に関する相談や治療に対応している、お住まいの地域の「医療機関」や「地域包括支援センター」などが検索いただけます。



「認知症 地域支援マップ」画面

■認知症あんないダイヤル(0120-1652-44)

— e-65.net 内で紹介しているお住まいの地域の医療機関や地域包括支援センターをご案内します。

電話番号: 0120-1652-44

受付時間: 9:00~21:00(土日祝も受け付けています)

受付期間: 10月31日まで

※啓発キャラクターの「ちびまる子ちゃん」も登場する認知症特設サイト (<http://sodan.e-65.net/>)も開設しております。

— 本件に関するお問い合わせ先 —

「47都道府県 認知症に関する意識・実態調査」広報事務局(株式会社ジェイ・ピーアール内)
担当: 山本・瀧澤 電話: 03-3403-1745 FAX: 03-3403-1753